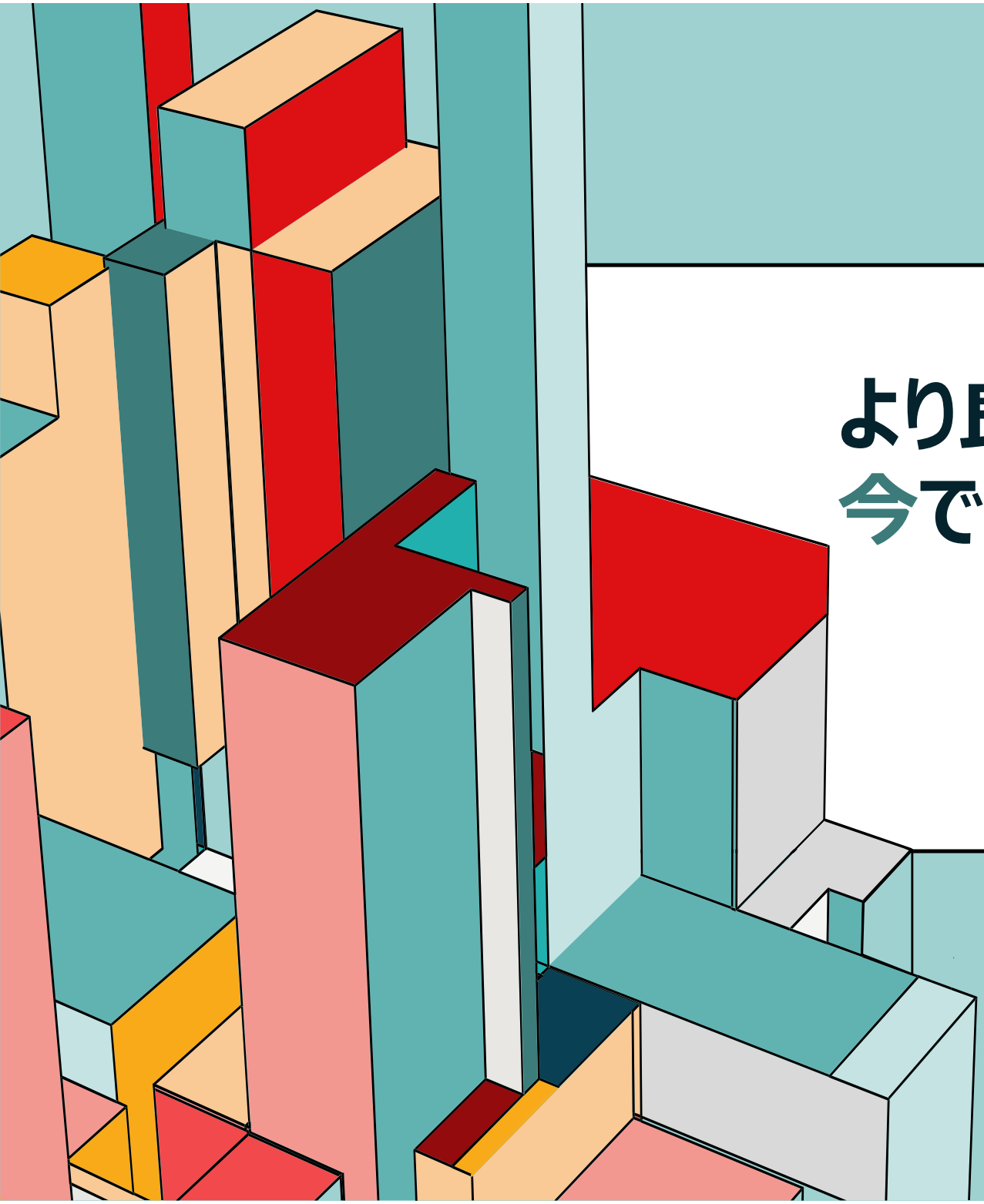


より良い未来のために、今できることを考えよう

March 2025

財務省 フューチャー・デザイン・グループ
Ministry of Finance, JAPAN

より良い未来のために、
今できることを考えよう

私たちの子孫は、どんな社会で生きていくのでしょうか。

少子高齢化、環境問題、財政悪化…

「フューチャ・ーデザイン」とは、私たちの社会にある

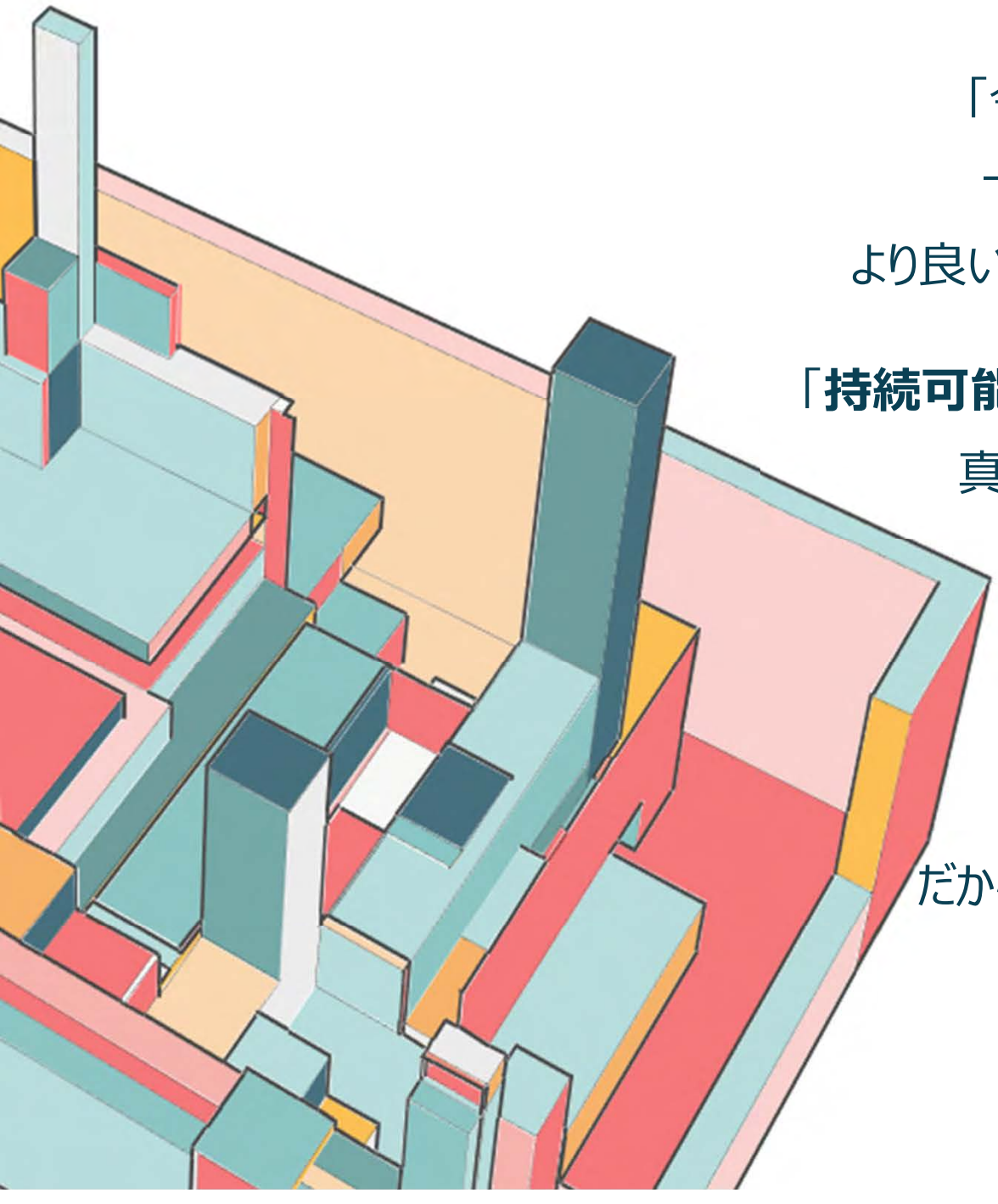
様々な課題について、

現在の世代だけでなく、その課題の影響が及ぶ

「**未来の人々**」の立場も踏まえて議論しようという取組です。

これまでも将来のことはたくさん考えてきたはずですが、

つい目の前のことを優先し、将来のための行動は後回しになりがちです。

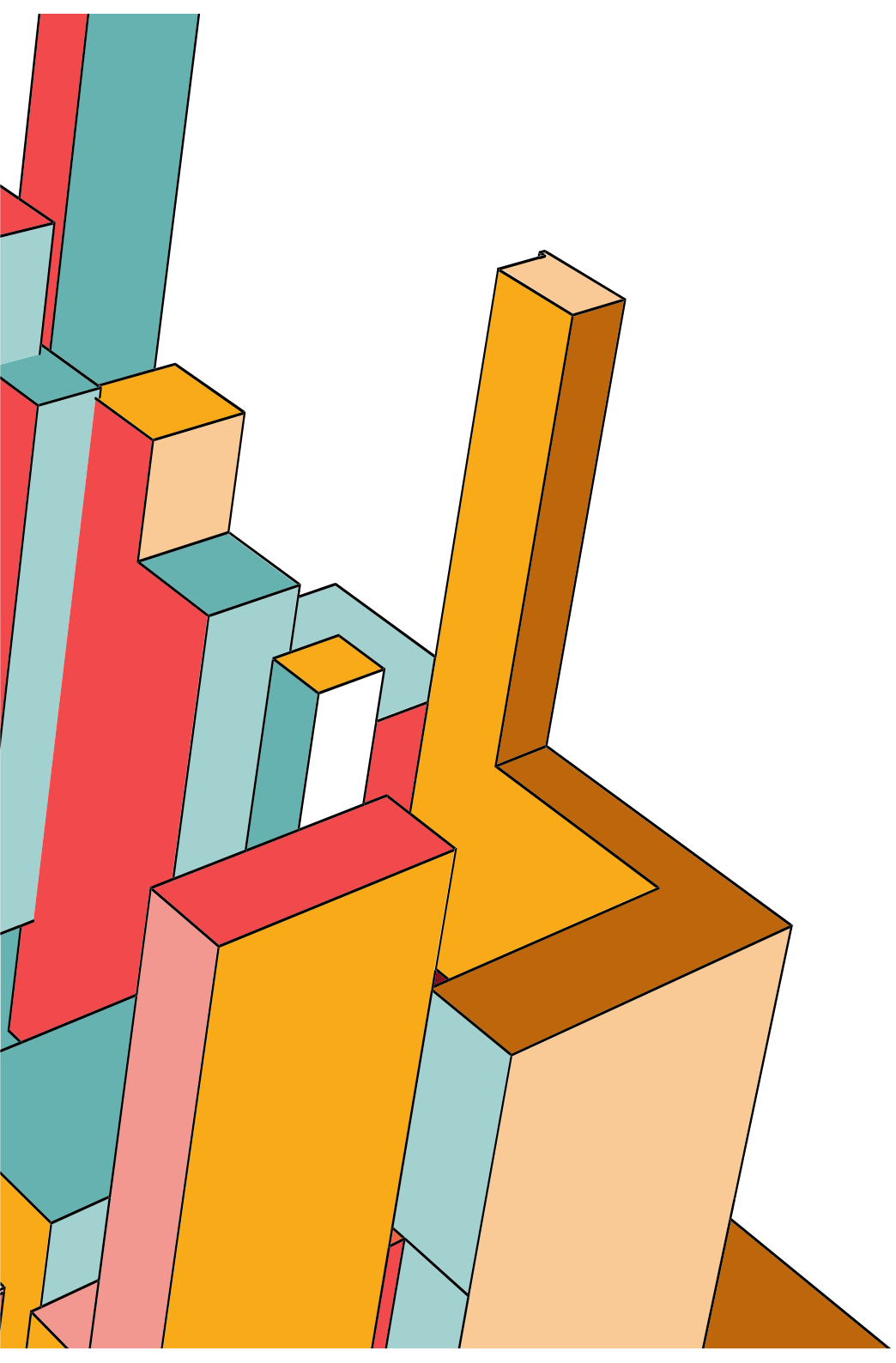


「今」、目の前の暮らしの課題解決が
一時的な解決で終わらないように。
より良い暮らしが続いていく社会の実現のために。

「**持続可能な社会**」をつくっていく上での課題について、
真剣に考えていきたいと思っています。

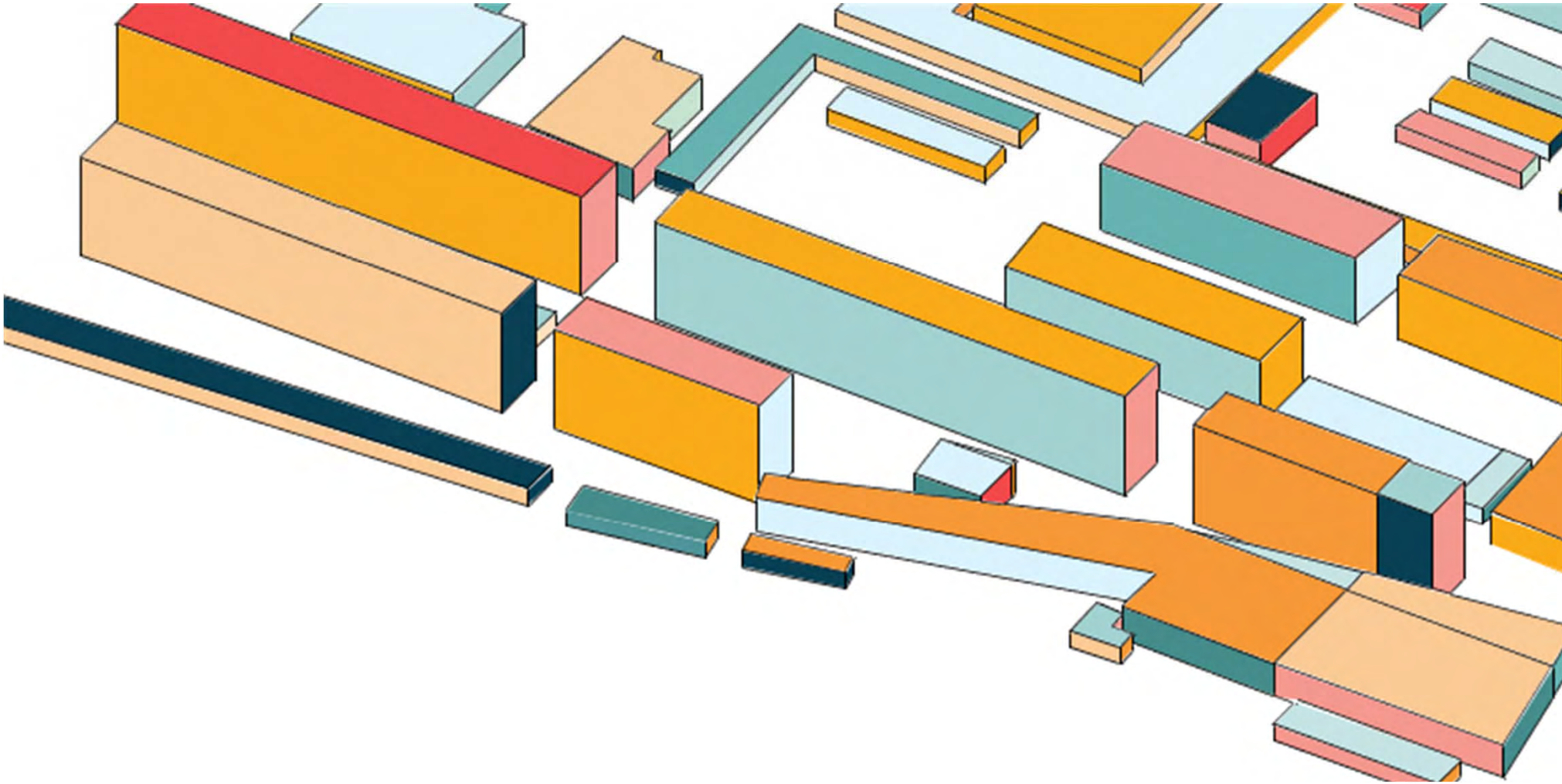
私たちの今の選択が
未来の社会に繋がっていきます。

だからこそ、今、どんな選択をすれば良いか
私たちが未来の人々になりきって
議論してみましょう。



フューチャー・デザインで議論したいテーマの例

- 少子化対策
- 環境問題
- 経済・財政
- 都市と地方の在り方
- 働き方と暮らし
- 教育の在り方　　など



未来視点で考えてみよう

「今」の選択は
「未来」に繋がっている

私たちは様々な問題について、どのように対応するか話し合って決めています。
例えば、社会保障の在り方、財政、環境問題など。
その対応方法を取ることによる影響は、私たちだけでなく、**未来を生きる人々**にも及びます。
しかし、未来の人々は、今現在の話し合いには参加することができません。

19XX

2025
「今」を生きている
私たち

20XX
将来世代

だから 私たちが ”未来人“ になってみよう

「未来の人々」の意見を「今の選択」に反映させるために
未来にタイムスリップしたつもりで
未来の人々が生きる社会を想像してみましょう。

そして、その社会の実現のために、
または、将来の失敗を避けるために。

今を生きる私たちがどうすれば良いか
提言を送ってみましょう。

「未来の人々のためになることをしたい」
という気持ちを持って物事を決めると
私たちの社会は**持続可能**なものになっていきます。

ワークの流れ

- ワーク 1　　**「過去」**の人たちに向けて提言するとしたら？
- ワーク 2　　**「未来」**にタイムスリップしたとしたら？
- ワーク 3 - ①　　未来から今の人たちに向けて**メッセージ**を送るとしたら？
- ワーク 3 - ②　　メッセージを**具体的な提言**にしてみよう

ワーク１

「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？
－　2025年から1970年への提言　－

未来にタイムスリップしたつもりで 現在の私たちの行動について提言を送るといっても、

例えば、30年後や50年後の日本や世界は**どのくらい変わっている**のでしょうか？

どんな風に提言をすれば良いのでしょうか？

その感覚をつかむために、まずは**現在から過去の人たちに向けて**

同じように提言をしてみましょう。

過去の人たちにとっては、私たちも「未来の人々」だったのです。

※　ここでは例えば約50年前の1970年代の例を挙げますが、
ご自身が生まれた頃、就職した頃など、振り返る時代は自由に設定いただいて構いません。

1970年代の日本・世界の様子は？①

例えば・・・

経済・為替

- **高度経済成長**（～73年）
- 大量消費、大量廃棄が定着
- 73年にドル/円が変動相場に移行。71年の1ドル360円（固定相場）から、78年には180円前後まで円高が進み、輸出利益が減少
- **第一次石油ショック**でトイレットペーパーの買い占め等が発生
- 日本列島改造政策による土地投機と第一次石油ショックにより、激しいインフレ発生、74年はマイナス成長に
- 70年代後半は**安定成長に移行**（成長率4～5%）

政策

- 70歳以上の**老人医療無料化**。医療費の急増、待合室のサロン化等の弊害
- **日本列島改造政策**の推進、後退
  （日本列島を高速道路・新幹線などの交通網で結び、地方の工業化を促進し、日本列島の均衡ある発展と地域格差解消を図る）

財政

- 74年のマイナス成長を受け税収が落ち込む中、福祉の充実や社会資本整備の促進のため歳出が増加
- 75年以降、**赤字国債の発行が常態化**
- 諸外国による内需拡大要請もあり、積極財政を行い、国債発行が急増

1970年代の日本・世界の様子は？②

例えば・・・

人口構造、出生率

- **第二次ベビーブーム**（71～74年）
- 人口は**1億1千万人**を突破
- 合計特殊出生率は71年に2.16、79年には1.77に低下。**少子化が始まる**
- 1975年の高齢化率は約８％

働き方

- 土曜日は半日仕事
- 物価上昇以上に**給与が上昇**
- 70年代前半は専業主婦率が戦後最も高く、後半から**女性の社会進出**が進み始める

生活

- ３C（**カラーテレビ・クーラー・車**）の普及
- スーパーマーケットの普及、コンビニ誕生
- 生活程度を下・中の下と感じる人が減り、中程度の層が増加

環境

- 経済成長に伴い、**水・大気の汚染**が進み、**公害**が社会問題に。法規制が進み始める。
- **環境庁**が発足
- 最高気温35度以上の猛暑日は70年代平均で年間0.9日（2013～2022年平均は年間3.4日に増加）

アメリカ・ソ連・中国

- アメリカは景気低迷・インフレに苦しむ
- 米ソは**冷戦下**だがデタント（緊張緩和）で核兵器の軍備を制限
- 中国は社会主義経済から市場経済体制へ移行、改革開放が始まる

「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？①

2025年から1970年への提言

例えば・・・

○○してくれたら、良かったのに！

○○という政策によって、日本は▲▲という問題が起こってしまった。
●●すれば（しなければ）この問題は避けられたのではないか。

医療や年金などで主に高齢者に配慮した政策がとられていたが、
現在では、少子高齢化が進み、社会保障費の増加により
若者の負担が増加し、財政も悪化している。

例１　高齢化社会の本格到来に先駆け、しっかりとしたユニバーサルな社会保障制度を作ったおかげで、**安心して生きていける社会になった**。

例２　当時から、**少子化対策**を進めたり、**社会保障にかかる負担を将来に先送りしない**ような仕組みを考えるべきだった。

「過去」の人たちに向けて提言するとしたら？②

2025年から1970年への提言

例えば・・・

○○してくれて、ありがとう！

1970年に、○○に力を入れたおかげで将来▲▲がとても社会の役に立った。
もっと●●したらより効果が出るだろう。

第一次石油ショックによる混乱の後、日本は**石油の安定的な生産や備蓄、省エネ化や石油に替わるエネルギーの開発**に力を入れた。

例１　そのおかげで、第二次石油ショックでは混乱が抑えられ、比較的短期間で回復することができた。

例２　当時から、再生可能エネルギーの推進などで石油への依存をもっと軽減しておけば、近頃の原油高騰の影響も抑えられただろうし、温暖化対策の意味でも良かっただろう。

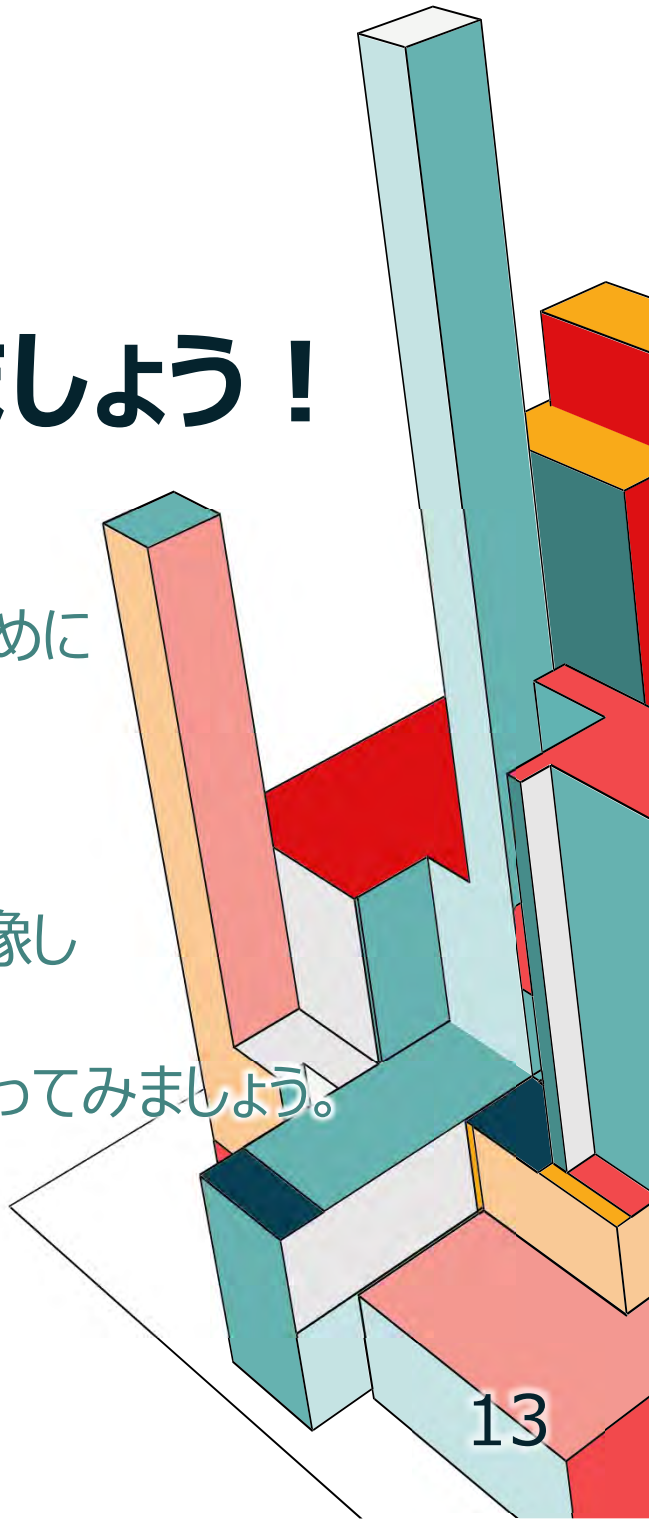
いよいよ、未来に目を向けてみましょう！

未来の人々の意見を今の選択に反映させるために

未来にタイムスリップしたつもりで、

未来の人々が生きる社会をクリエイティブに想像し

その実現のために今の私たちがどうすれば良いか提言を送ってみましょう。



ワーク２　「未来」にタイムスリップしたとしたら？

－2070年の未来を想像してみよう－

生活や社会を自由に想像してみてください！
また、なぜそうなるのか、**理由**も一緒に考えましょう。

（→　考えたことをワークシート（ P.22）に書き込んでみましょう！）

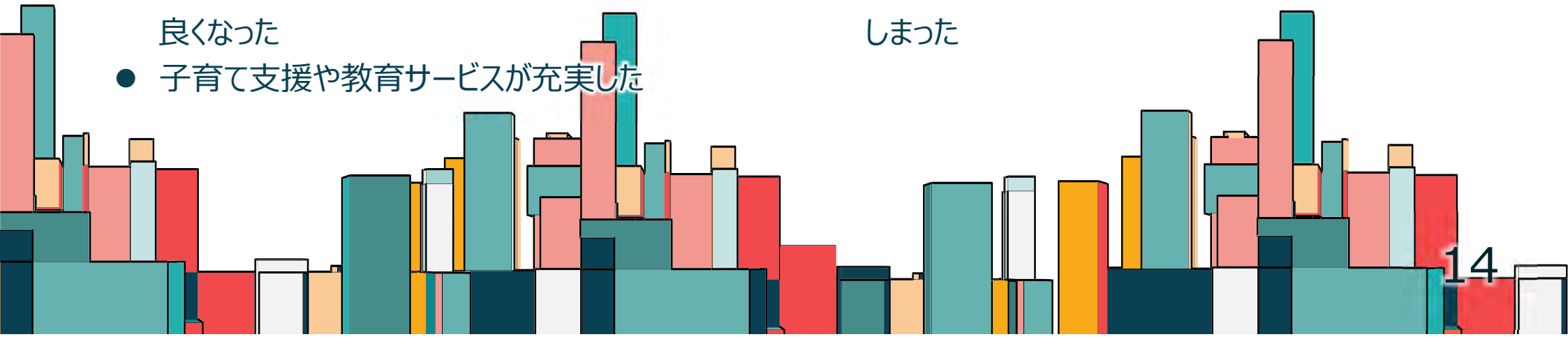
例えば、少子化や医療・介護分野では・・・

少子化が改善し、皆が豊かになった未来

- AIやロボットによる仕事の代替が進んだことで、人間の労働時間は減ったが、給料は増えた
- 性別を問わず、育休を取っても、キャリアに不利になることはなくなった
- リモートワークが普通になり、働き方・住環境が良くなった
- 子育て支援や教育サービスが充実した

人手不足と財政悪化が深刻になり、医療・介護サービスは高額な贅沢品となった未来

- 少子化に歯止めがかからなかった
- 重い負担を悲観した若い世代の海外移住が加速
- 日本経済は世界から置いてきぼりになった
- 支え手の減少による財政悪化で社会保障制度が破綻し、医療費や介護費の負担が高額になってしまった



未来を想像してみよう①

- 想像するヒントとして、いくつか現状の課題や未来予測をお示しします。
- 何らかの出来事や改善策によって、予測とは異なる未来もありえます。

例えば、他の分野では・・・

地方

- **地方から大都市への人口移動**が収まらない場合、2040年には、約1,800自治体のうち、**523自治体が「消滅可能性（※）」が高く**、人口移動が収まる場合でも、243自治体が「消滅可能性（※）」が高いと予測されています。

※　20～39歳の女性人口が５割以上減少し、人口規模が１万人未満となることを指す。最近では**テレワークの普及を機に地方移住への関心**が高まっています。

（出所）巻末１参照

気候変動

- 現在を超える追加的な対策を取らない場合、21世紀末には以下のような影響が予測されます。
  - 日本の**年平均気温が4.5℃上昇**し、猛暑日が19日間増加します。
  - **豪雨や台風**の発生頻度が増加し、強さも増します。
  - 海面が約0.7メートル上昇し、沿岸部の**浸水被害が増加**します。
- 日本は、**2050年までにカーボンニュートラル**（温室効果ガスの排出実質ゼロ）の実現を目指しています。

（出所）巻末２参照

人口

- 2050年に、2020年と比べて**総人口が30%以上減少**する都道府県が**11県**に達すると予測されています。
- 2065年には、日本の**総人口は約8,800万人**（現在の７割）に、特に働く世代は約4,200万人（現在の６割）に減少する一方、高齢者は約3,400万人で現在とそれほど変わらないと予測されています。
- **先進国では一般的に少子化傾向**が進みますが、出生率が回復する国も見られます。

（出所）巻末３参照

未来を想像してみよう②

- 想像するヒントとして、いくつか現状の課題や未来予測をお示しします。
- 何らかの出来事や改善策によって、予測とは異なる未来もありえます。

例えば、他の分野では・・・

経済・財政

- 2075年まで日本の**平均成長率は０％台**のままとなり、GDPは2050年に世界第６位、2075年に**第12位まで後退**するという予測があります。（中国・インド・米国の７分の１程度）
- 今のままだと、社会保障費が増大する中で、適切な負担がなされず、**財政・社会保障制度の持続可能性への懸念**が高まります。

（出所）巻末４参照

格差

- 日本の**相対的貧困率**（世帯の所得が、その国の中央値の半分に満たない状態の割合）は先進国35か国中**７番目**に高いです。（2017年調査）
- 親世代から子世代へと格差が固定化すると、未来に希望の持てない若者が増加したり、能力が十分に発揮されないという**社会的な損失**に繋がります。

（出所）巻末５参照

技術革新

- 2050年までに、以下のような研究が進みます。
  - **アバター**を活用し、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現する研究
  - 人と同等以上の身体能力を持ち、自ら思考・行動し成長する**AIロボット**を開発する研究
  - 超早期に**疾患の予測・予防**ができる社会を実現する研究

（出所）巻末６参照

ワーク３－①

未来から今の人たちに向けてメッセージを送るとしたら？①

－2070年から2025年への提言－

想像した未来像は、「いつ」「どのような」選択から始まったのでしょうか。
皆さんも未来から現在にメッセージを送ってみましょう！

（→ 考えたことをワークシート（P.22）に書き込んでみましょう！）

例えば・・・

○○してくれたら、良かったのに！

○○という政策によって、日本は▲▲という問題が起こってしまった。
●●すれば（しなければ）この問題は避けられるのではないか。

少子化に歯止めがかからず、重い負担を悲観した若い世代が海外に移住し、日本経済は世界に遅れを取ってしまった。支え手の減少による財政悪化で**社会保障制度が破綻**し、医療費や介護費の負担が高額になってしまった。

例１　雇用や賃金の**格差を早く是正**し、希望する若者が**安心して結婚・子育て**できるようにすべきだった。

例２　働き手の減少に対応するため、**AIやロボットを活用**し人手不足を解消しつつ、そこから生まれる**収益を社会保障に活用**できる仕組みを構築しておけば良かった。

ワーク３－①

未来から今の人たちに向けてメッセージを送るとしたら？②

－2070年から2025年への提言－

想像した未来像は、「いつ」「どのような」選択から始まったのでしょうか。
皆さんも未来から現在にメッセージを送ってみましょう！

（→ 考えたことをワークシート（P.22）に書き込んでみましょう！）

例えば・・・

○○してくれて、ありがとう！

2020年代に、○○に力を入れたおかげで将来▲▲がとても社会の役に立った。
もっと●●したらより効果が出るだろう。

AIやロボットによる仕事の代替が進んだことで、人間の労働時間が減った一方で所得は増え、育児と仕事の両立が進んだ。さらに子育て支援や教育サービスも充実したので、**少子化が改善**し、皆が豊かに暮らせるようになった。

例１　AIやロボットの**技術革新**だけでなく、活用にあたって**社会制度**がしっかり出来ていたので、広く人々の**ワークライフバランスや所得を改善**できた。

例２　例１がこどもを持ちやすい土台となり、さらに**行政の支援が充実**したので少子化を改善することができた。

ワーク３－②

メッセージを具体的な提言にしてみよう

－2070年から2025年への提言－

先ほど想像した未来像が、良い未来であればそれに近づくために。

良くない未来であれば、そうならないように。

未来をより良くしていくために。

私たちは今、**具体的に、何をどう変える必要がある**でしょうか。

また、それは**具体的に、それぞれの主体が何をすれば良い**でしょうか。

（→ 考えたことをワークシート （P.23）に書き込んでみましょう！）

何をどう変える？

- 国や地方の政策
- 予算、税制
- 社会保障制度
- 働き方
- 教育の在り方

など

だれが何をする？

- 政府
- 地方自治体
- 政治家
- 民間企業
- 市民

など

今、私たちは何をすべきか
－2070年から2025年への提言－

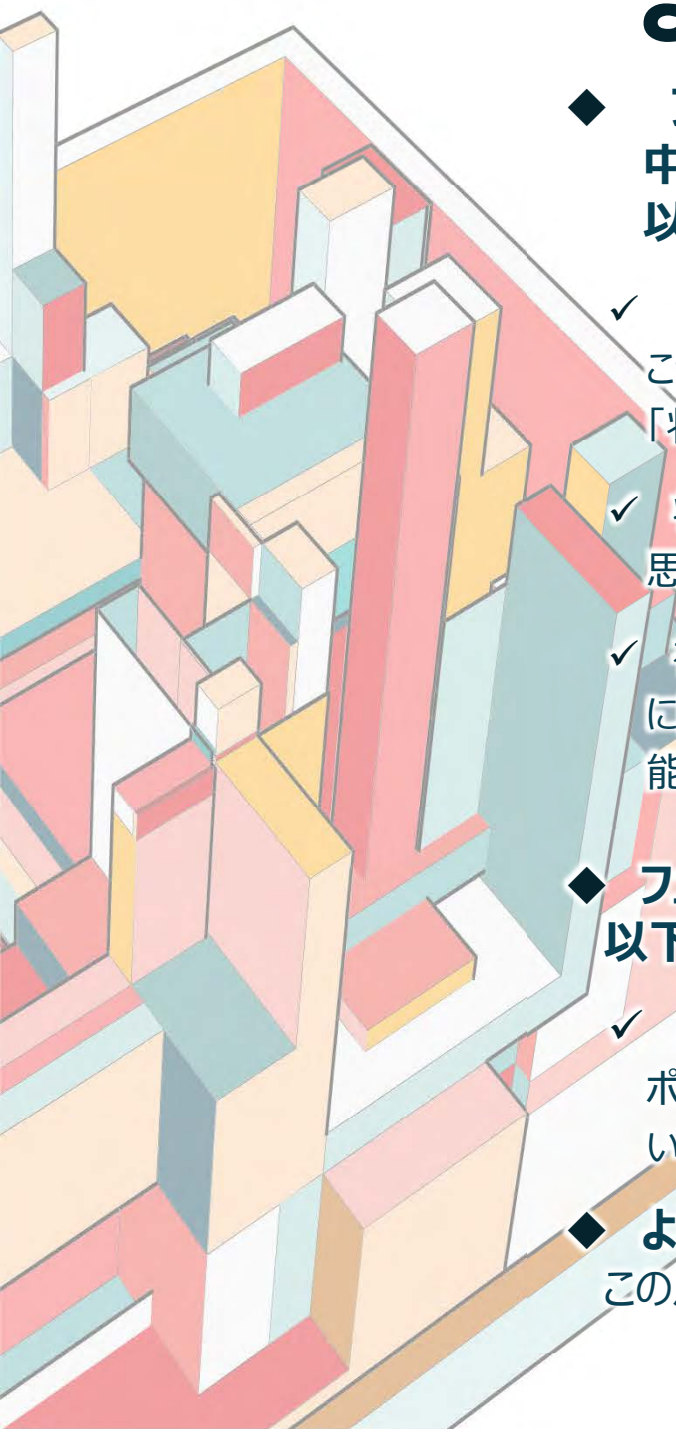
未来からの提言をいざ実行しようとすると
現在の世代から**反対意見**や**支障となる点**が出てくるケースもあるかもしれません。

それは一体どのようなケースでしょうか。

例えば、今、経済成長のために資源をたくさん使いたいけれど、
そうすると将来、温暖化が進んでしまう、という状況。

「未来のため」を優先すると、現在を犠牲にしてしまう。
逆に、現在を優先すると、未来を犠牲にしてしまう。

こういうとき、私たちはどのように行動すれば良いでしょうか。
現世代とタイムスリップした未来人とで、一緒に話し合ってみましょう。
もしくは、自分の中で、現世代と未来人の視点を切り替えながら考えてみても良いでしょう。



まとめ

◆ **フューチャー・デザインを研究されている西條辰義特任教授**（京都先端科学大学）、**中川善典教授**（上智大学大学院地球環境学研究科、総合地球環境学研究所）**は、以下のようにお話しされています。**

✓ 自分のこどもや孫のためにした行動が、自分自身を幸せな気持ちにさせると感じることがあります。こうした気持ちが、親と子の間だけではなく、現世代を将来世代との間にも成り立つとき、現世代は「将来可能性」を持つと定義したいと思います。

✓ 将来世代が生きる社会をクリエイティブに想像する経験を経ると、その実現のために頑張りたいと思い、将来可能性が発揮されることが分かってきました。

✓ 社会の仕組みが変われば、私たちの将来可能性が発揮され、「社会がどのようになるのが良いか」に関する私たちの選好も（もしかしたら価値観さえも）変わるでしょう。…私たちの社会は持続可能なものになっていくことが期待できます。

◆ **フューチャー・デザインを大学の授業で取り入れられた岡本剛准教授**（九州大学）**は、以下のようにお話しされています。**

✓ これまでの様々な実践を通して、自ら視野を広げたり、新しい課題を発見したり、マインドセットをポジティブに変えたりする効果がわかってきました。より良い教育を自らの手で始め、拡げ、継続していくことが、本来のフューチャー・デザインの目的の達成のために、今求められていると思います。

◆ **よりよい未来のために、「今できること」**を考えてみましょう。題材は何でも構いません。このパンフレットが少しでもその助けになれば幸いです。

書き込みワークシート

「未来」にタイムスリップしたとしたら？

（P.14参照）

未来から今の人たちに向けて
メッセージを送るとしたら？

（P.17, 18参照）

書き込みワークシート

メッセージを具体的な提言にしてみよう

（P.19参照）

自由記入欄

（参考文献・ウェブページ）

○ フューチャー・デザインの基礎研究

- 西條辰義（2024）.『フューチャー・デザイン』. 日本経済新聞出版
- 中川善典（2024）.『フューチャー・デザイン 実践のために　第２版』. 総合地球環境学研究所
  https://doi.org/10.20568/0002000037
- フューチャー・デザイン・コンソーシアムウェブサイト
  https://www.future-design-consortium.org/

○ 「未来を想像してみよう」（P.15, 16）

1. 内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）、「選択する未来2.0」報告参考資料
   https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html
   https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/future2/index.html
2. 文部科学省・気象庁(2020)「日本の気候変動2020」
   https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html
3. 総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」
   https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html
   https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson23/t-page.asp
4. 内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）
   https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html
5. OECD(2017)「OECD経済審査報告書」、内閣府(2014)「目指すべき日本の未来の姿について」（「選択する未来」委員会会議資料）
   https://www.oecd.org/economy/surveys/Japan-2017-OECD-economic-survey-overview-japanese.pdf
   https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/0224/agenda.html
6. 内閣府(2020)「ムーンショット目標」
   https://www8.cao.go.jp/cstp/moonshot/target.html

関連情報

はじめてのフューチャー・デザイン

https://www.futuredesign.go.jp/

財務省ホームページ

https://www.mof.go.jp/

【第１版】2023.4.28
【第２版】2025.3.31